

前期重点計画の実績・成果	後期重点計画に向けた課題	後期重点計画の実績・成果	総括（振り返り）
<p><b>① 羽田空港の国際化に対応する仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際化キャンペーンイベント（羽田グローバルエキスポ等）の開催</li> <li>来～る大田区大使による多角的な情報発信の推進</li> <li>安心して楽しめる受入体制（ソフト面及びハード面）の整備（多言語パンフレット、観光案内サイン、羽田空港内観光情報コーナー、ウェルカムショップ制度等）</li> <li>外国語ガイドの養成、海外メディア等と連携したモニターツアーの実施</li> </ul>	<p>→ → →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外への広い情報発信に繋がる、近隣自治体・民間事業者と連携したプロモーション</li> <li>羽田空港のある自治体としてのM I C Eの積極的な推進</li> <li>来訪者へより一層のおもてなしを提供する受入環境の整備（既存制度の充実）</li> <li>羽田空港国際線発着枠の拡大等、東京への来訪者増加に備え、空港近接の立地特性を活かしたうえ、区の魅力の向上と情報発信のさらなる推進</li> </ul>	<p><b>① 世界とつながる「国際都市おおた」の特性を活かした来訪者誘致活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンド誘致（海外旅行博への共同出展、インフルエンサーの招聘、観光PR動画の拡散等）の実施</li> <li>大田区らしいM I C Eの確立に向けた取組み（IME出展、大田区M I C E推進会議設置等）の推進</li> <li>安心して楽しめる受入体制（ソフト面及びハード面）の充実（大田区観光情報センター、O T A C I T Y F R E E W i - F i、大田区公式観光サイト、大田区公式観光Facebook等）</li> <li>国際都市おおた及び空港からの近接性等をPRするイベント（国際都市おおたフェスティバルin「空の日」羽田、Discover the Real Japan:Visit Ota等）の開催等</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「国際都市おおた」の魅力を国内外に訴求する仕組みやツールを整える他、近隣自治体・民間事業者等と連携したプロモーションを実施する等、着実かつ時流に沿った誘致活動・情報発信を実施してきた。</li> <li>☞ <u>区内への観光目的の潜在者が多くない現況、反面、今後のインバウンド誘客による観光需要の拡大見込み等を踏まえると、よりきめ細かくターゲットやマーケットを定める他、取組の取捨選択を行う等、取組の再構築を行いながら、改めて目指す「ところ」を見据える時機にある。</u></li> <li>✓ 旅行者が安心して快適に区内を移動・滞在・観光することができる、ソフト面及びハード面での受入環境が数多く整備された。</li> <li>☞ <u>ユニバーサル（バリアフリー等）対応や災害時、M I C E誘致等を想定又は鑑みる環境整備は、未だ検討・整理の途上にある。</u></li> </ul>
<p><b>② 大森と蒲田を拠点とした都市観光への取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大森・蒲田の商店街や飲食店、銭湯・黒湯等の地域情報の収集・整理、関係機関と連携したPR事業の実施</li> <li>NHKの連続テレビ小説「梅ちゃん先生」を契機に地域や関係機関と連携したまちおこしの推進</li> </ul>	<p>→ → →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大森・蒲田を中心拠点としつつ、広範囲に広がる観光資源、地域ごとの多種多様な魅力の掘り起し等、区内全域を視野に入れる取り組み</li> <li>来訪者の再来訪率を高める、来訪の契機となる地域ブランドの創出とさらなる情報発信</li> </ul>	<p><b>② 区内各地域の魅力を活かした都市観光への取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区内各地域の魅力を再整理し、見どころ（銭湯、商店街、食、歴史・文化芸術等）を切り口とするモデルコース、それらを繋げるスタンプラリー、商品開発（黒湯サイダー等）等、多様な訴求手法による活用促進</li> <li>地域が主体となり区の観光資源を活かした「にぎわい」を創出する事業支援の推進</li> <li>区内の商いと観光の魅力をPRするイベント（おおた商い観光展）の実施</li> <li>映画等撮影（映画「シン・ゴジラ」等）を契機に地域や関係機関と連携したプロモーションの推進</li> </ul>	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 区の特徴的な資源（銭湯、商店街、食、歴史・文化芸術等）の掘り起し・取り上げ・活用が進み、大森・蒲田はもとより、区内各地域が持つ「魅力」が様々な機会・媒体を通じ区内外に発信される等、都市観光を成長させる取組が数多く実施された。</li> <li>☞ <u>遠隔地から訪問を促すほどの著名な資源に恵まれない本区においては、生活に根差す地域資源（地域性）に着目し、誘客に繋がる発信手段や仕掛けづくりへの注力が引き続き必要である。</u></li> <li>✓ 観光案内サインの整備、まち歩きマップの作成、まち歩きガイドの養成等、区内各地域の「魅力」を体感する回遊環境の整備が進んだ。</li> <li>☞ <u>徒歩以外（自転車等）の手段検討が進んでいない等、さらなる都市観光の促進に向けては、区の隅々まで回遊を可能とする仕組み・環境づくりに検討の余地がある。</u></li> </ul>
<p><b>③ 水と緑のまち大田区を楽しむ仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光情報誌・既存イベントでの水辺・豊かな緑の紹介</li> <li>隣接する自治体と連携したカヌー・屋形船等（舟運実験）を用いた体験型の新たな魅力の創出</li> </ul>	<p>→ → →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水・緑（観光資源）の区内外への発信、体験ができる継続的な仕組みづくりを目指した、観光まちづくり団体・事業者との連携とさらなる情報発信</li> </ul>	<p><b>③ 水と緑のまち大田区を楽しむ仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光関連HP・観光情報誌・既存イベント等での水辺・豊かな緑の紹介（継続・充実）</li> <li>水辺を観光資源とした事業（カヌー体験等）の推進</li> <li>近隣自治体と連携した夜景クルーズ、舟運社会実験（観光・周遊クルーズ等）の実施</li> <li>水辺や緑に親しめる区内散策ルート（呑川緑道、桜のプロムナード、臨海部散策路）の整備（案内サイン含む）</li> <li>臨海部における新たな水辺空間（水辺に親しむ公園：昭和島二丁目公園等）の整備</li> </ul>	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 水辺・緑を観光資源と捉え、様々な媒体、時にイベントを活用し情報発信に取組む他、それらをコンテンツに仕立て事業実施（実証含む）する等、区の特徴といえる水辺・緑の魅力を区内外に訴求する仕組みづくりと展開が図られた。</li> <li>☞ <u>他の特徴的な資源（銭湯・商店街・食等）と比べ、取り上げの程度、体験等の機会は多くなく、未だ活用に創意工夫の余地がある。</u></li> <li>✓ 水辺・緑に親しむ散策路・公園・案内サイン等の計画的な整備、また、多摩川流域・臨海部の自治体との事業交流等、回遊や広域・面的活用に向けた基盤整備が進められた。</li> <li>☞ <u>空港跡地等、今後も魅力を備えた施設整備が進む中、これら資源の有効な利活用に向け、民間事業者を含む関係者がより連携し知恵を出し合う取組みが不可欠である。</u></li> </ul>
<p><b>④ 世界に誇る「おおたのモノづくり」をみせる仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大田の工匠・優工場等、視察等受入企業への一般来訪者受入に関わる意向調査の実施（課題等抽出含む）</li> <li>旅行会社による観光資源・グルメ・産業現場の見学・体験ができるツアー造成を目指した産業観光モニターツアーの実施</li> <li>企業の受入促進を目的とした助成制度の設立</li> <li>大田観光協会と3大学（首都大学東京、横浜国立大学、東京大学）の連携による、おおたオープンファクトリーの継続実施</li> </ul>	<p>→ → →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視察等受入先企業の負担・役割・メリット等の明確化</li> <li>継続的な仕組みを見据えた旅行事業者との密な連携</li> </ul>	<p><b>④ 世界に誇る「モノづくり」等大田の産業をみせる仕組みづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区の産業と地域資源（銭湯、商店街等）を活かす回遊性をもった事業（支援含む）等の推進</li> <li>企業の受入促進を目的とした助成制度の継続</li> <li>「モノづくり」観光における情報発信・交流拠点（くりらぼ多摩川）の創出</li> <li>「モノづくり」等のPRを目的とする、いきいき大田写真コンクール「産業・ものづくり」部門賞等の展開</li> </ul>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 区の特徴である「モノづくり」産業を魅せる取組（おおたオープンファクトリー、おおたお土産100選、おおたの逸品等）が、関係者の連携のもと展開され、区の有力な観光資源として定着・注目が進んだ。</li> <li>☞ <u>民間事業者による産業観光ツアー造成（商品化）の未実現等、区外から産業を軸に誘客する仕組み構築には至っておらず、孕む課題整理とできる不足解決のうえ、臨海部に存する産業施設の活用を見据える等、さらなる取組みに向けては検討の余地も多い。</u></li> <li>✓ 「モノづくり」観光における情報発信・交流拠点、受入促進のための支援制度整備等、受入体制に一定の進捗が図られた。</li> <li>☞ <u>受入における明確な仕組みがなく、体験・見学・視察ニーズに十分に対応できる仕組みが構築されていない等、未だ課題も多い。</u></li> </ul>
<p><b>⑤ 観光振興を推進する体制・環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興を継続的にかつ効果的に推進する、観光関係民間事業者、関係機関等との連携</li> <li>情報共有の強化を目的とした、観光推進連絡協議会の設置</li> </ul>	<p>→ → →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な目的で来訪する来訪者全般を対象に、都市生活そのものを体感する観光振興を進めるための、関係機関との連携（情報共有のみならず、パートナーとしての深い連携）</li> <li>地域の観光に対する機運を高める、幅広い連携（NPO・ボランティア・個人等）</li> <li>広域的視点に立つ、近隣自治体を中心とした面での誘致・誘客</li> </ul>	<p><b>⑤ 観光振興を推進する体制・環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興を継続的にかつ効果的に推進する、観光関係民間事業者、関係機関等との連携（継続・充実）</li> <li>近隣自治体等（品川区、川崎市等）との広域連携（誘客のための事業実施等）の推進</li> <li>来訪者への「おもてなし」事業のより一層の推進等を目的とした、大田区観光推進連絡協議会の体制整備</li> <li>観光振興を進めるうえで必要となる基礎データ収集・分析（統計調査等）の定期的な実施</li> </ul>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大田区観光推進連絡協議会による数々の事業実施、同協議会の繋がりを契機とした新たな事業連携の発生等、区の観光を推進する体制に着実な発展（観光関係者（行政・企業・団体等）間の連携の深度化）が見られた。</li> <li>☞ <u>推進体制の一翼を担う地域の気運醸成が途上にある他、区民・子ども等の多様な主体を体制の一員（推奨者、プロモーター等）とする効果的な仕組みづくり等、強化の余地は少なくない。</u></li> <li>✓ 川崎市・品川区との事業連携、ピジットジャパン連携事業への参加等、広域・面的な誘致・誘客の展開を図る環境づくりが推進された。</li> <li>☞ <u>連携者間における実績・成果の振り返り、より連携を効果的にする手法の検討、新たな連携先の構築等、発展させる余地は少なくない。</u></li> </ul>